

令和 2 年 2 月 2 4 日公表

令和 2 年度 第 1 回八王子支社入札監視委員会定例会議議事録

開催日及び場所	令和 2 年 1 0 月 1 4 日 (水) 中日本高速道路株式会社八王子支社 2 0 3 ・ 2 0 4 会議室 (Skype 会議)	
出席委員 (敬称略。委員については、5 0 音順。)	委員長：杉山 俊幸 (山梨大学 理事・副学長) 委 員：今川 奈緒 (茨城大学 人文社会学部 准教授) 角田 淳 (弁護士) 並木 則和 (工学院大学 先進工学部 教授) 藤井 浩司 (早稲田大学 政治経済学部 教授) 村越 潤 (東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 教授)	
審議対象期間	令和元年 1 0 月 1 日～令和 2 年 3 月 3 1 日	
抽出案件	総件数 5 件	(備考)
工事 (一般競争入札)	1 件	
工事 (指名競争入札)	1 件	
工事 (特命契約)	1 件	
調査等 (指名競争入札)	1 件	
物品・役務 (一般競争入札)	1 件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問	回 答
	(別紙のとおり)	(別紙のとおり)
委員会による意見の具 申又は勧告の内容	今回審議に付されたものについて、適正であることを確認した。	

別紙 委員からの意見・質問、それに対する回答等

1. 入札・契約手続きの運用状況等の報告及び審議 本社契約審査部からの報告及び審議	
意見・質問	回 答
新型コロナウイルスの影響で、入札事案に関して今までと傾向が違うということはないか。	入札公告において競争参加資格確認申請書の提出に時間がかかることから、提出期限を延ばすなどの措置をとった。業者との対面によるヒアリングが難しいことから、リモートによるヒアリングを行うなど、工夫を凝らすことで、入札全体の遅れは生じていない。

2. 入札・契約手続きの運用状況等の報告	
意見・質問	回 答
報告内容について意見等なし	

3. 抽出案件の審議	
(1) 工事（一般競争入札 総合評価落札方式）	
工事名：中央自動車道 小仏トンネル他1シェルター非常用設備更新工事	
意見・質問	回 答
小仏トンネルと烏山シェルターは、かなり場所が離れているが、まとめて契約している。これは、発注規模が小さいと受注されないことを考慮してのことか。場所が離れていることは、受注に影響がないのか。	小仏トンネルは、比較的大規模であるが、烏山シェルターのような小規模なトンネルで受注ボリュームが少ない所は、受注者が受けづらいということはある。烏山シェルターと小仏トンネルは、距離が離れているが同じ保全・サービスセンターの所掌内であり、管理を一括して行うことができるので、このような規模で発注している。
トンネル内の消火設備について、老朽化に伴う設備更新の判断基準はあるのか。	老朽化により錆が発生したり、故障の頻度が増えてくることから、定期的な点検を行うことで、設備の更新判断を行っている。
なぜ1者しか応札者がいないのか。	標準的な仕様で発注を行い、結果として1者であったということで、理由は分からない。
今回、金額が大きいのはなぜか。	2 kmにわたるトンネル内の防災設備（水噴霧設備）を更新するとなると、この程度の金額になる。非常用設備自体、ボリュームが大きいので、高額になる。

<p>落札率が高いのはなぜか。</p>	<p>入札参加希望者から主要な設備（消火栓・水噴霧設備）の見積を徴取し、その価格をもとに当社の契約制限価格を決定していることから、落札率が高くなる傾向がある。</p> <p>また、トンネル非常用設備工事や交通情報設備工事は、いわゆるメーカー系の工事のため、1者入札の状況が見られる。</p> <p>当社として、競争性を高めるために、発注ロットの考え方、参加資格要件の設定のしかたなど、工夫を重ねながら、なるべく多くの者に入札に参加いただけるよう検討を行っている。</p>
---------------------	---

(2) 工事（指名競争入札）

工事名：八王子支社管内 本線型自動計測装置設置工事

意見・質問	回答
<p>本工事で設置する設備について、メンテナンスはどれぐらい必要になるのか。</p>	<p>レーンに設置されている従来の軸重計も路面に埋め込むタイプだが、従来軸重計よりも車線縦断方向の寸法が短いため（車線横断方向の寸法は従来も本工事もほぼ同じ）、数が多いが、工事の規模は小さくなる。現在設置中で、メンテナンスがどれぐらい必要になるかは、これから判明してくるが、既製品であり仕組み的にも単純なため、耐久性に問題があるというものではない。</p>

(3) 工事（特命契約）

工事名：中央自動車道 八王子管内のり面災害復旧工事

意見・質問	回答
<p>防災型発注方式において特命契約とした理由は何か。</p>	<p>災害応急復旧作業は、複数の隣接施工業者に実施していただいたが、本復旧工事はのり面工事が必要であり、施工できるのが本工事の契約相手方のみであった。特命理由として、既存の設備や資材が使用可能なため経費の節減につながること、現地状況に精通しており短期間での準備や円滑な協議が可能であることから、工期の短縮を図れ、安全かつ円滑に、適切な施工が確保できると判断した。</p>

<p>見積書が提出され、ヒアリングを行い、価格を決める契約方式であるが、その価格の妥当性をどのように確認するのか。</p>	<p>防災型発注方式については、調査設計業務も含めて一式で発注し、調査設計が終わった段階で、設計に基づいて契約変更を行うもの。以降は、通常の工事と同じ手続となり、現地で条件が違った場合は工法の変更を行って、新たに単価を決める。最終的には設計、現場の施工に基づいて精算を行う。</p>
<p>(4) 調査等 (公募型プロポーザル方式・不落特命)</p>	
<p>調査等名：中央自動車道 上長房橋 (下部工) 拡幅詳細設計</p>	
<p>意見・質問</p>	<p>回答</p>
<p>報告内容について意見等なし</p>	
<p>(5) 物品・役務 (一般競争入札)</p>	
<p>件名：八王子支社管内 凍結防止剤購入 (2019年度)</p>	
<p>意見・質問</p>	<p>回答</p>
<p>凍結防止剤は、季節によって使用する量が変わるわけだが、契約としては予定数量分だけは権利として購入して、使用しない場合も支払いを行うのか。</p> <p>凍結防止剤は、高品質な仕様が求められるものではなく一般的な物であり、原則としては、一括購入、規格化、大規模化が可能という取引の特性を持っている。工夫することでより効率性を高めることができる。会社全体の契約を本社で一括契約し、各支社で個別に契約することで、スケールメリットを高めることができるのではないかと。</p> <p>各支社が個別に分散して契約することは、リスクもあるし、調達コストもかかる。</p> <p>過去の契約実績を見ると単価が上がっているが、為替レートの影響との理解で良いか。</p>	<p>ご質問のとおり、季節によって使用する量は異なる。契約としては、過去3箇年の使用実績から予定数量を算出して単価契約として、使用実績に対し支払っている。</p> <p>以前は各保全・サービスセンターごとに個別に契約していたが、スケールメリットの観点から、現在は複数の保全・サービスセンターを合わせた形で契約している。凍結防止剤の調達は、輸入品に頼っているため、八王子支社管内で使われているものも、太平洋側の港を拠点とする会社と日本海側の港を拠点とする会社から購入し、リスク分散しているところもある。</p> <p>今後も適切なスケールメリットで取引するよう発注手続を行う。</p> <p>単価が上がった要因は、予定数量に関係していると考えられる。単価構成は、凍結防止剤の代金よりも、運搬費などが多くを占めていることから、過去3か年の実績から算出する予定数量が年々少なくなっているため、固定コストの部分の比率が大きくなり単価が上がったと考えられる。</p>

【補足説明及びその他改善検討指示事項等】	
意見・質問	回 答
<p>今回の審議案件について、特に指摘する事項はない。</p> <p>コメントとして3点伝える。</p> <p>1点目は、今後も1者入札にならないよう、競争原理が働くよう工夫をお願いしたい。</p> <p>2点目は、凍結防止剤の購入について、本社全体で購入することを検討することも有用であり、スケールメリットを活かした購入を検討いただきたい。</p> <p>3点目は、過去3か年の入札状況の報告において、できるだけ1者入札や不落を解消するために、新しい契約方法を導入しているが、その効果があったかについて、報告をお願いしたい。</p>	